



社会福祉法人

いのちの電話 東京

2022年度 事業報告



はじめに

いのちの電話に、温かなご支援とご協力を頂いている皆様にはお変わりございませんか。突然のコロナ禍の出現に対する驚きの反応から慣れ・打開の反応へと、私たちの心や社会全体の動きが少しずつ変わりつつあります。日々や1年の経つのが、今まで以上に早く感じるこの頃でもあります。お蔭さまで、電話相談・インターネット相談・土曜医療相談の相談事業は、コロナ禍前の状況に戻りつつあります。

さて、1年間の当法人の活動の振り返りと、次年度の活動に向けての課題についてご報告させて頂く時期となりました。まだまだ油断はできませんが、私たちの活動を進めていく上で、今後につながると思われる動きを皆様にお伝えしたいと思います。

一つは、電話相談・インターネット相談・土曜医療相談事業が通常に戻りつつあることです。回復には、内にもともと備わっていた力が求められます。私たちの活動でいえば、他者を思いやる心です。人としての苦勞を知っているからこそ、社会生活を送る中でのさまざまな制約を超え、よき隣人としての働きをしたいという願いです。活動の原動力ともいえるものです。コロナ禍では、相談員・事務局スタッフ・研修スタッフ・後援会の皆様が、活動可能な仲間へのエールと相談者への祈りをもってスクラムを組んでまいりました。いつでも前に進む力を秘めた忍耐の表れが、好転の兆しが出てきた時の活動相談員数の回復やチャリティコンサート・バザーなどの再開につながっています。

一つは、さまざまな社会的支援を行っている組織や団体との有機的連関が、今後の活動充実に必要であるとの意識が現れてきていることです。苦しみや困難を抱えている人の心の痛みを汲み取りながら、生きる力・喜びにつながるよき出会いとなることを願って活動が続けてきています。この願いに基づいた人との関わりは、現代社会が抱えているさまざまな社会的・心理的問題の取り組みに生かすことが出来るという社会的な役割の自覚です。孤独・孤立に対する事業への協力や、子育て支援・引きこもり家庭支援・遺族支援などの活動団体や組織との連携を模索し始めました。生きていく上で譲ることの出来ない価値である命の大切さ、人として生活する上での基本的な権利を守ることの大切さは、安心・安全な環境と自由とともに私たちの活動の本質に触れています。

それぞれの活動内容、相談実態につきましては、後続の報告をご参照くださいますように。不安・恐れ・疑心の中で、孤独感・あきらめ・絶望感を感じながらも生きていかざるを得ない現在の社会状況の中で、人の温もりを感じる「よき出会い」は誰もが渴望しているものだと思います。いのちの電話の活動がその出会いとつながっていることを心に銘じながら、新たな1年をスタートしたいと思います。前年度に引き続き、皆様の温かなご支援とご協力を賜りますようお願い申し上げます。

社会福祉法人いのちの電話
理事長 末松 渉



社会福祉法人いのちの電話の基本活動方針

社会福祉法人いのちの電話は、苦悩の多いこの時代にいきるものが互いによりき隣人となって、ひとりひとりのいのちを大切にしようという思いから生まれました。

「いのちの電話」は、思いを同じくする多くのボランティア相談員によって「電話」「インターネット」を通じた対話を中心に次に掲げる事項を基本として活動します。

- 一. 「いのちの電話」は、すべての人、とくに危機に直面している人、自殺を考えている人、孤独のなかであって、助け・慰め・励ましを求めている一人一人に向けて開かれています。
- 一. 「いのちの電話」は、相談者に対してよき隣人として開かれた心を持ち、親身になって対応することを基本とします。
- 一. 「いのちの電話」は、相談の秘密を守ります。
- 一. 「いのちの電話」は、相談者と相談員の双方の匿名性を尊重します。
- 一. 「いのちの電話」は、相談者の思想、信条、信仰等を尊重します。
- 一. 「いのちの電話」による電話相談は、無料です。
- 一. 「いのちの電話」は、所定の研修を受けた人たちによって一日 24 時間体制で相談を受付けます。
- 一. 「いのちの電話」は、電話相談以外の相談事業についても上記に述べた諸方針で行います。
- 一. 「いのちの電話」は、主として寄付によって自主的に運営されています。

2022 年度社会福祉法人いのちの電話概況

2023 年 3 月現在

設 立	1971 年 10 月 1 日開局	相 談 時 間	24 時間（年中無休）
法 人 認 可	1973 年 12 月	活 動 内 容	電話相談 インターネット相談 医療相談 フリーダイヤル（毎月 10 日、20 日、30 日）
組 織	理事 11 名・監事 2 名・評議員 13 名	相 談 員 養 成	年 1 回公募
相談員実働数	217 名	相 談 員 研 修	継続研修 全体研修会等
認定者累計	1,891 名	運 営 費	年間経費：約 4,000 万円
受 信 件 数	17,384 件（2022 年 1 月～ 12 月） 男 7,733 件 女 9,651 件	機 関 紙	広報誌「いのちの電話—東京」
総受信件数	開局以来累計 1,403,415 件	関 連 団 体	一般社団法人日本いのちの電話連盟 日本自殺予防学会

2022 年度 活動内容

I 実施した研修

1. 養成研修 (18 ヶ月)
 - 55 期生 (2 年目) Ⅲ期 32 名 インターン期 29 名 ● 56 期生 (1 年目) 第Ⅰ期 33 名、第Ⅱ期 33 名
2. 継続研修
 - ‘22 年 4 月～‘23 年 3 月実施 (8 月を除く)
3. 全体研修 於研修室 300 A 及び ZOOM
 - 「電話による救急救命の基礎知識」‘22 年 7/16(土) 講師：河野秀夫氏 (麴町消防署 警防課救急係長 消防指令) 参加者：31 名
 - 「女性相談：虐待 (DV) をめぐって」‘22 年 12/13(火) 講師：高岸聡子氏 (東京都女性相談センター 所長) 参加者：27 名
4. フリーダイヤル研修 於研修室 300 A、及び ZOOM
 - 「ひきこもりについて」‘22 年 9/8(木) 講師：林恭子氏 (一社 ひきこもり UX 会議 代表理事) 参加者：31 名
 - 「児童相談所の対応について」‘22 年 10/22(土) 講師：白田有香里氏 (東京都児童相談センター相談援護課課長代理) 参加者：34 名
5. スキルアップをはかるための個人スーパービジョン
 - 講師：飯島睦子氏 (元研修委員長) 岩田淳子氏 (成蹊大学教授・臨床心理士) 逸見敏郎氏 (立教大学教授・臨床心理士) 参加者：12 名
6. インターネット相談研修
 - インターネット相談員養成研修
 - ‘23 年 1 月～3 月 講義と OJT 参加者 8 名 (東京 5 名・他センター 3 名)
 - インターネット相談員継続研修 ‘22 年 7/26(24 名)・12/1(24 名)・‘23 年 3/12(16 名)3/21 (24 名)

II 活動

1. 役員会
 - 理事会 第 30 回～第 32 回 (3 回) ‘22 年 4/25、11/8、‘23 年 3/7
 - 評議員会 第 15 回～第 16 回 (2 回) ‘22 年 5/12、‘23 年 3/27
2. 研修委員会
 - 委員会の開催 (8 回) ‘22 年 5/20、7/1、7/29、9/21、12/6、12/7 ‘23 年 1/10、2/13、(8 回の内 2 回メール)
 - リーダー会：定例研修会、宿泊研修、継続グループ運営、相談員のケア、スーパービジョンの研修と実施
 - ‘22 年 5/28、7/29、9/30、11/30 合宿 ‘23 年 1/28、29、3/29
 - 地域連携プログラム ‘22 年 9/14(中央区 9 名)、10/24、11/2、12/3(東京福祉大 計 114 名)
 - 11/30(杉並区保健所 10 名) ‘23 年 3/22(中央区保健所 40 名)
3. 運営協議会
 - 委員会の開催 第 130 回～第 134 回 (5 回) ‘22 年 5/14、7/9、9/10、11/12、‘23 年 1/14
4. ボランティア委員会
 - 各継続グループから委員を選出し、隔月に委員会を開催 (5 回) ‘22 年 5/14、7/9、9/10、11/12、‘23 年 1/14
 - 内容は、相互交流、情報・意見の交換、連絡、行事への参加協力、研修への提案、組織運営への理解と提案等
 - 全体会 (毎年 3 月) の企画・実施 3/11(土)
5. 広報委員会
 - 年 2 回、機関紙『いのちの電話 東京』を発行 (‘22 年度は 167 号・168 号)
6. 財務委員会 (3 回)
 - 財務 (予算・決算・その他) ●委員会の開催 ‘22 年 4/20 (決算案)、10/26 (中間決算等)、‘23 年 2/22 (予算案)
7. インターネット相談委員会
 - 委員会の開催 (5 回) ‘22 年 6/4、9/3、12/10、‘23 年 1/21、3/25
 - コーディネーター会の開催 (5 回) ‘22 年 5/12、8/4、11/14、‘23 年 2/13、3/30

III その他

1. 相談員 (57 期生) の募集
 - ‘23 年 4/30 まで募集
- ※●応募者 53 名
2. 感謝式・全体会 (3/11(土))
 - 永年勤続感謝：40 年 (16 期) 1 名、20 年 (37 期) 7 名、10 年 (47 期) 4 名
3. 厚生労働省事業への参加協力 (‘22 年 1 月～12 月)
 - 補助事業「自殺予防フリーダイヤル」に参加 期間：毎月 10 日 朝 8：00～翌朝 8：00 専用電話 1 本 参加者：延べ人数 48 名 受信件数：284 件 ※毎日フリーダイヤル (20 日・30 日) 16:00～21:00
4. その他 苦情対応 事務局で対応 相談事業に対する苦情 49 件 (‘22 年 1～12 月)

2022 年度 相談の実態とその傾向

● 電話相談の統計から

2022 年（1 月～12 月）の電話相談受信件数は 17,384 件（前年比＋11.5％）であった。新型コロナウイルス感染症の波が周期的に押し寄せる中、受信件数は若干の増加に終わった。男女比では、女性からの相談が多い傾向に変化は見られなかった（男性 7,733、女性 9,651）。相談を利用した年代は 50 代が最も多く、次に 40 代、60 代となっており、高年齢層の相談が多い傾向に変化はない。

相談の内容では、一人で複数の問題を抱えて、生きづらさを訴える相談が多く寄せられた。

自殺志向は若年層が、高年齢層に比して高い傾向がみられる。自殺志向率は、13.6％で前年に比べて 0.8％増加した。特に夜間（19 時頃から翌朝 8 時まで）の相談の自殺志向率は、17.0％と日中の時間帯より高く、前年比でも 1.6％増加した。

※平均通話時間：29.6 分（男性 24.1 分、女性 34.1 分）

表 1 電話相談 年代別件数

	男性	女性	2022 年 合計	2021 年 合計
10 代	152	48	200	170
20 代	413	384	797	620
30 代	1,054	1,035	2,089	1,769
40 代	1,747	2,147	3,894	3,256
50 代	1,988	2,482	4,470	4,426
60 代	1,380	1,769	3,149	2,965
70 代以上	346	1,249	1,595	1,318
不明	653	537	1,190	1,070
合計	7,733	9,651	17,384	15,594

図 1

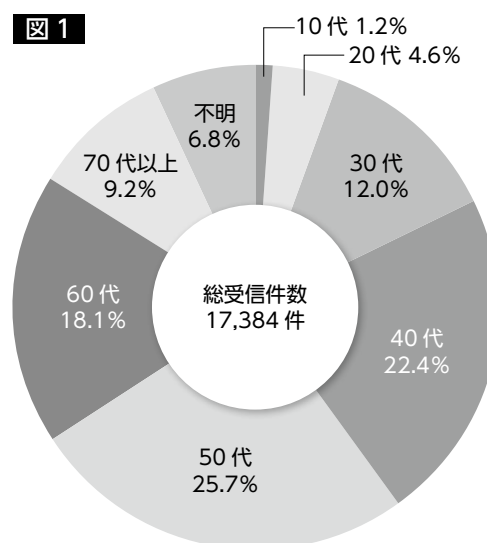


表 2 電話相談 内容別件数

	男性	女性	2022 年 合計	2021 年 合計
人生	2,589	3,045	5,634	4,984
思想・人権	72	36	108	86
職業	444	406	850	831
経済	243	212	455	412
家族（含親族）	463	1,362	1,825	1,564
夫婦	151	527	678	611
教育	17	16	33	35
対人	542	1,349	1,891	1,616
男女	233	267	500	501
身体	313	568	881	748
精神	1,416	1,530	2,946	2,916
情報	74	78	152	107
その他	1,176	255	1,431	1,183
合計	7,733	9,651	17,384	15,594

図 2

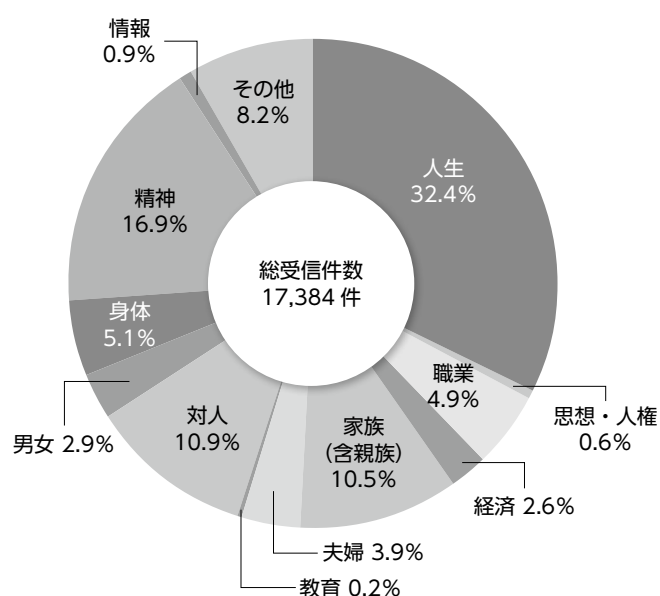
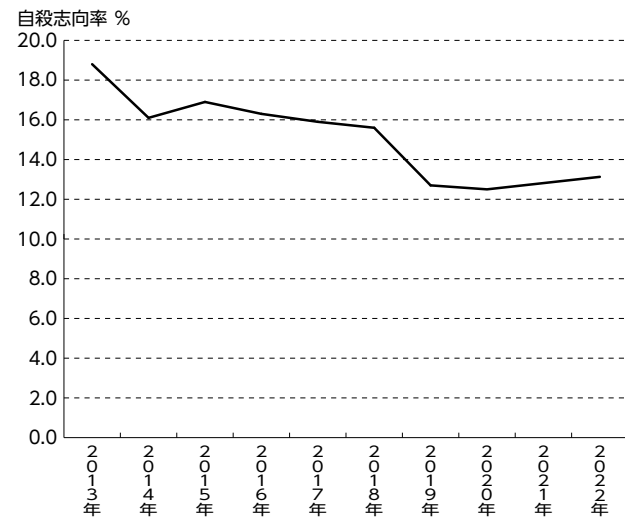
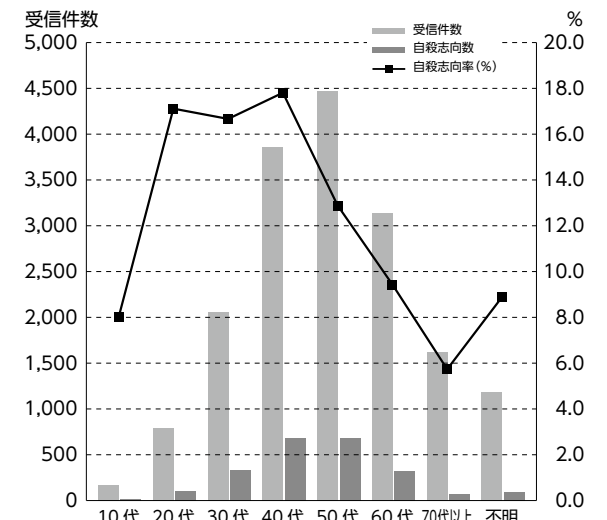


図3 電話相談 10年間の自殺志向率



	2013年	2014年	2015年	2016年	2017年	2018年	2019年	2020年	2021年	2022年
受信件数	28,276	28,164	27,161	25,443	24,135	22,194	21,440	16,626	15,594	17,384
自殺志向率(%)	18.8	16.1	16.9	16.3	15.9	15.6	12.7	12.5	12.8	13.6

図4 電話相談 年代別受信件数と自殺志向率



	10代	20代	30代	40代	50代	60代	70代以上	不明
受信件数	200	797	2,089	3,894	4,470	3,149	1,595	1,190
自殺志向数	16	137	349	697	670	303	92	106
自殺志向率(%)	8.0	17.2	16.7	17.9	15.0	9.6	5.8	8.9

土曜医療相談

カトリック医師会、キリスト者医科連盟、その他の医師により毎週土曜日 14 時～17 時に行われている。2022 年の相談件数は 302 件（男性 99 名、女性 203 名）（男性 33%、女性 67%）。月毎の平均通話数は約 25 件である。医療情報がネットなどで容易に得られることが影響してか、若年者からの相談件数は極めて少ない。コロナの影響もあるのか、相談件数は 2019 年まで減少傾向にあったが、2020 年、2021 年と増加していたが、2022 年は再び減少した。科目別では、精神科関連が多く、治療中の方からのものが多い。コロナに関してはワクチンに関することや罹患しているか不安で、繰り返しかけてくる方も多い。疾患・医療そのものの他に、医師や家族との関係性や病を持っているための生きにくさなど、複合的な相談やただ話したいという方も多い。希死念慮のある方は少ないが、持病があることで急な変化を起こす可能性も高く、丁寧に対応することが求められる。

【科目別相談件数】 2022 年 1 月～12 月

	男性	女性	合計
精神科（心療内科）	55	117	172
内科	26	50	76
外科（整形外科）	9	25	34
婦人科・産婦人科	0	3	3
泌尿器科	1	1	2
皮膚科	0	3	3
耳鼻科	0	2	2
歯科	0	0	0
眼科	0	2	2
小児科	0	0	0
性について	0	0	0
エイズ	0	0	0
健康相談	0	1	1
美容形成	0	0	0
その他	11	17	28
合計	102	221	323

* 複数回答あり

【月別相談件数】 2022 年 1 月～12 月

	男性	女性	合計
1 月	3	18	21
2 月	8	23	31
3 月	6	12	18
4 月	9	19	28
5 月	8	15	23
6 月	6	21	27
7 月	9	14	23
8 月	11	12	23
9 月	13	15	28
10 月	8	27	35
11 月	8	17	25
12 月	10	10	20
合計	99	203	302
2021 年			328
2020 年			304

フリーダイヤル

全国のセンターが参加してフリーダイヤル電話を受けている。
2022 年度の受信件数は、前年比 27.6% 減となった。通常電話より自殺志向率が高いことが特徴である。

	男	女	計
相談件数	142	142	284
自殺志向数	24	35	59
自殺志向率	16.9%	24.6%	20.8%
平均通話時間（分）	15	23	19

担当延べ人数 48 人 2022 年 1 月～12 月（毎日フリーダイヤル含む）

インターネット相談

「いのちの電話みんなのインターネット相談」は、東京、埼玉、川崎センターの協同運営により実施し、2022年(1月-12月)の相談返信件数は1,778件(うち東京センター669件)、自殺志向率は41.6%となっている。性別(男性524件、女性1,097件、非開示157件)では女性からの相談が多く、年代別では若年層(10代以下-30代)からの相談が全体の約6割であるが、40代、50代からの相談も増加している。相談内容では、人生(43.4%)、保健・医療(19.0%)、家族(13.3%)の相談が増加傾向にある。

また、「日本いのちの電話連盟インターネット相談」は、引き続き盛岡、仙台、秋田、新潟、栃木、埼玉、東京、川崎、静岡、浜松、愛知、奈良、愛媛、福岡、熊本センターにより実施し、相談返信件数は1,145件(うち東京センター25件)、自殺志向率は39.1%、性別は男性481件、女性643件、非開示21件となっている。

図5 インターネット相談 年代別

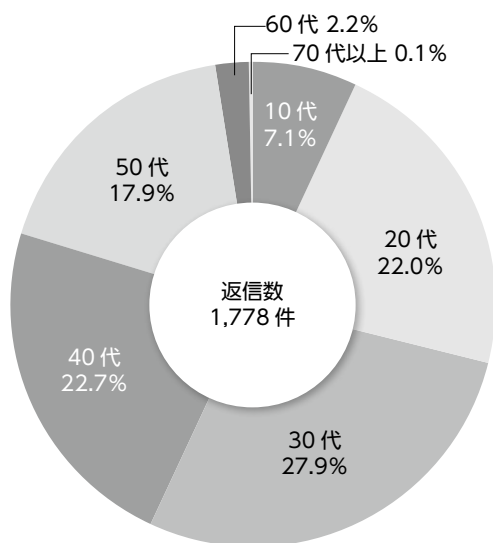
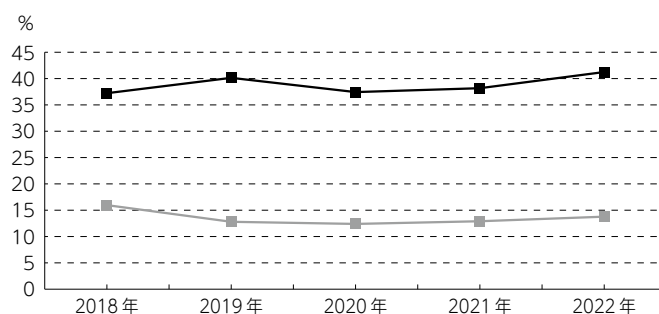


図7 過去5年間の電話相談とネット相談の自殺志向比較



	2018年	2019年	2020年	2021年	2022年
電話相談%	15.6	12.7	12.5	12.8	13.6
ネット相談%	37.4	39.6	36.9	37.9	41.6

図6 インターネット相談 内容別

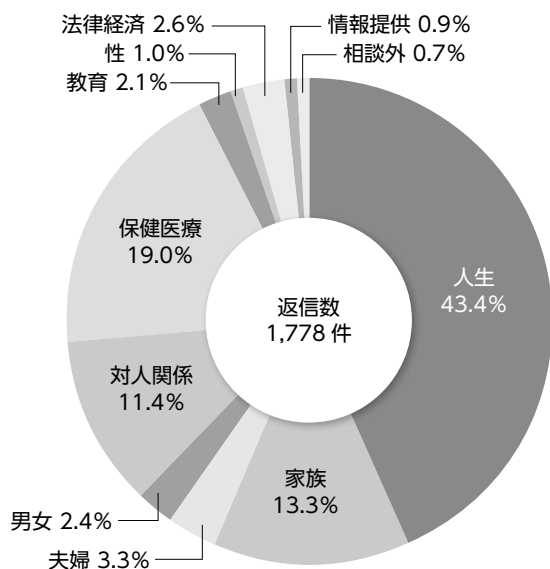
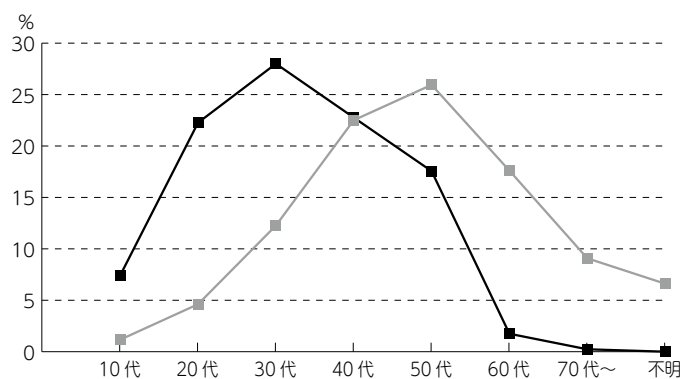


図8 2022年電話相談とネット相談の世代別比較



年代別	10代	20代	30代	40代	50代	60代	70代~	不明
電話%	1.2	4.6	12.0	22.4	25.7	18.1	9.2	6.8
ネット%	7.1	22.0	27.9	22.7	17.9	2.2	0.1	0

2022 年度 決算報告

2022 年度収支決算書 (自 2022 年 4 月 1 日 至 2023 年 3 月 31 日)

単位：円

収 入 の 部		支 出 の 部	
科 目	金 額	科 目	金 額
賛助（団体）	11,093,385	施設管理費	6,108,660
賛助（個人）	9,578,353	相談員研修費・ボランティア厚生費	8,461,377
後援会チャリティ寄付	500,000	連盟連帯費	1,255,000
東京都電話事業補助金	1,825,000	通信費・交通費	2,163,826
東京都自殺防止対策事業補助金	1,142,000	広報印刷費・調査研究費	679,800
共同募金・年賀寄付金分配金	8,000	システム運用費	959,140
研修受講料	1,819,500	事務費・人件費	12,182,878
雑収入	284,869	事務用消耗品費	2,006,216
受取利息	2,473	什器備品費	595,942
減価償却資金積立金取崩	900,000	減価償却費	1,045,950
相談事業積立金取崩	8,305,209		
収入 総 合 計	35,458,789	支出 総 合 計	35,458,789

(注) 当期活動収支差額は △ 8,305,209 円。

2022 年度貸借対照表 (2023 年 3 月 31 日現在)

単位：円

借 方		貸 方	
科 目	金 額	科 目	金 額
現金預金	6,932,900	未払金	408,032
未収入金	1,142,000	預り金（公租公課・他）	39,610
積立金資産	92,810,125	基本金	100,000,000
基本財産特定預金	100,000,000	その他積立金	92,810,125
ソフトウェア	1,701,360	正味財産増減差額	15,648,049
建物構築物	2,237,893		
電話権利	1,355,020		
差入保証金	2,726,518		
合 計	208,905,816	合 計	208,905,816

監査報告
社会福祉法人いのちの電話の 2022 年度（令和 4 年 4 月 1 日～令和 5 年 3 月 31 日）における財務諸表および付属明細書、並びに財産目録の各事項について、社会福祉法人会計基準により監査したところ、その内容は適正かつ正確なものと認めます。
定款等諸規定にもとづく業務ならびに総務定元帳、伝票、業務書類についても監査した結果、適切に執行されているものと認めます。
事業報告またはその付属明細書は、法令及び定款に従い、法人の状況を正しく示しているものと認めます。
理事の職務執行に関する不正の行為または法令もしくは定款に違反する重要な事実が認められません。
令和 5 年 4 月 28 日
社会福祉法人 いのちの電話
監事 高野正幸
監事 中村清紀

2023 年度 予算書

2023 年度収支予算書 (自 2023 年 4 月 1 日 至 2024 年 3 月 31 日)

単位：円

収 入 の 部		支 出 の 部	
科 目	金 額	科 目	金 額
賛助（団体）	12,000,000	施設管理費	6,146,000
賛助（個人）	9,000,000	相談員研修・ボランティア厚生費	9,210,000
後援会チャリティ寄付	1,000,000	連盟連帯費	1,130,000
東京都電話事業補助金	1,825,000	通信費・交通費	2,292,000
東京都自殺防止対策事業補助金	5,000,000	広報費・調査研究費	750,000
共同募金分配金	300,000	システム運用費	1,100,000
研修受講料	2,755,000	事務費・人件費等	12,431,000
雑収入	320,000	事務用消耗品費	1,950,000
受取利息	3,000	什器備品費	300,000
減価償却資金積立金取崩	900,000	減価償却費	1,045,950
相談事業積立金取崩	3,251,950		
収入 総 合 計	36,354,950	支出 総 合 計	36,354,950

2023（令和 5）年度 事業計画

社会福祉法人としての使命を十全に果たすため、組織が直面する諸課題に対処し、先見力・発信力を重視した組織運営を志向しつつ、具体的施策を立案・実行する。

1. 相談事業の安定的な実施

(1) 電話相談

年中・24 時間休みなく活動する電話相談の体制を維持し、活動を継続する。

(2) インターネット相談

インターネットによるメール相談活動を継続する。

(3) 土曜医療相談

協力医師による毎週土曜日の電話医療相談活動を継続する。

2. 相談体制の充実と強化

いのちの電話の理念に基づいた相談活動を継続するべく、相談体制の充実・強化を図るとともに、社会の変化や若年層からの相談の減少等への対応を進める。

(1) 電話相談員の誓約事項の遵守と、活動内容の活性化を図る。

(2) 相談員のモチベーションを維持し、支えるために、相談活動の成果を的確にフィードバックするとともに、相談実態に即した研修メニューを継続研修へ提供するなどの支援を推進する。

(3) 募集要項の周知の強化、応募 動機への訴求拡大などによって、相談員応募の拡充を目指す。

(4) 認定後の研修について、継続研修を基本として、全体研修、フォローアップ研修、個人スーパービジョンと連携を図りつつ実施し、サポート体制の強化につなげる。

(5) 社会の変化や若年層からの相談の減少等に対応するため、調査研究を進め、対応策の検討と対応の具体化に取り組む。

3. 活動への支援拡大に向けての取り組み

いのちの電話が、広く理解され、支援を得るために、積極的な広報活動に取り組む。

(1) 後援会主催行事等の実施へ協力するとともに、クレジット寄付や遺贈等、活動への支援方法を多様化し、財政を健全化する。

(2) 積極的な広報活動を展開するとともに、公益的な活動に関心のある企業・団体に対して支援を働きかける。

4. 社会に対する相談技法等の提供

培ってきた危機介入や気持ちに関わる考え方・技法を地域に提供し、社会との連携を深める。

(1) 地方公共団体、企業、学校 などにおいて、相談の技法等を体験・学習するプログラムを実施する。

(2) 危機介入や気持ちに関わる援助について、社会に広く紹介し、理解を広げる機会を拡充する。

5. 社会・外部組織との関係の強化

(1) 各種の支援活動、支援団体等との関係を充実し、活動の連携、活動基盤の強化、社会的認知の向上などを図る。

(2) 日本いのちの電話連盟や他のセンター等との協力関係を深める。

・厚生労働省補助事業自殺防止対策事業等に参加する。

・他センターと協力してインターネット相談事業の拡充を図る。

社会福祉法人 いのちの電話役員等名簿.....

2023 年 6 月 8 日現在

任期
2023 年 6 月 8 日～ 2025 年定時評議員会終結時

任期
2021 年 5 月 18 日～ 2025 年定時評議員会終結時

理 事 計 11 名

末松 渉	(社福) いのちの電話 理事長 末松TAコミュニティ研究所所長 臨床心理士
井村 華子	弁護士
植村みどり	(社福) いのちの電話ボランティア
大西 連	(認定 NPO 法人) 自立生活サポートセンター・もやい 理事長
岡村 五十男	いのちの電話後援会会長
小澤 康司	立正大学 心理学部教授
久保 美紀	明治学院大学社会学部教授
栗原 郁男	(社福) いのちの電話ボランティア
小柳 樹弘	(社福) いのちの電話ボランティア
逸見 敏郎	立教大学 文学部教授
和田 恵美子	医師・日本カトリック医師会会長

監 事 計 2 名

中村 清純	水町保険診療所医師
我妻 憲利	税理士

顧問等

顧 問	佐藤治隆 (弁護士)
苦情処理第三者委員	佐藤治隆 (弁護士) 中村清純 (医師)

評議員 計 13 名

岩田 淳子	成蹊大学文学部教授
神田 佳和	(社福) いのちの電話ボランティア
菊地 俊暁	慶応大学医学部講師
北川 逸英	日本ルーテル教団杉並聖真ルーテル教会牧師
清水 和良	(社福) 荒川区社会福祉協議会
杉山 恵子	(社福) いのちの電話ボランティア
高瀬 幸子	産婦人科医師、順天堂大学 非常勤講師 医療相談
谷口 尋子	(社福) 埼玉いのちの電話理事
野田 芳朗	(社福) いのちの電話後援会理事
樋田 大二郎	青山学院大学 教育人間科学部教授
藤盛 勇紀	日本基督教団富士見町教会牧師
藤原 佐世美	(社福) いのちの電話ボランティア
山崎 隆	(社福) いのちの電話ボランティア

50 音順 (理事長以外) 敬称略

後援会役員.....

2023 年 4 月 1 日

任期 2022 年 4 月 1 日から 2024 年 6 月後援会総会日まで

会 長	岡村五十男						
常任理事 6 名	岡内泰子	木川道子	郡山直	徳川信子	三崎由美子	渡邊富子	
理 事 7 名	浅見正博	今村郁子	植村みどり	各務啓子	神田佳和	野田芳朗	野呂雅彦
監 事 1 名	富部直希						
顧 問 2 名	中村武照	高村治子					

高橋幸子さん（表紙の作家）のことば

世の中で一番せいたくぬことはね、
 きらめく宝石を身につけることも
 大きなおねにほむこともなくて
 自然の中に身を置くことかしらね。
 どこまでも続く甘柔な焚火
 かえろが鳴るやミが鳴りて
 モフモフと入道雲がゆれて、
 雨あがりの穴工に大きな虹の橋がかかって、
 そのうち
 すすきやこおろぎかうたうわよね
 自然の中にまかされていることを感謝して
 みんなで
 お楽しみましょうね。
 高橋幸子

《作者紹介》

彫刻界で木彫の鬼才とよばれた故・高橋英吉の長女として、昭和16年神奈川県に生まれる。父英吉は芸大卒業後、28歳の若さで第3回文展において代表作「潮音」が特賞を受賞。以後、無鑑査の資格を得て将来を大きく嘱望されたが、ガダルカナルにて戦死（享年31歳）。高校1年から、亡き父の遺した豊富な作品、デッサンを学び始め、独学で独自の作風を編み出すとともに花鳥風月を刻み続け、暖かみのある作風で「心の版画家」と呼ばれている。神奈川県逗子市在住。

木版画家 高橋幸子

後 援 会

いのちの電話後援会は、社会福祉法人いのちの電話の財政基盤を支え、支援の輪を広げるため、また相談員をはじめとする会員相互の親睦を図ることを目的として組織されています。

寄付金募集の協力、広報活動、財政支援事業（チャリティーバザー、映画会、コンサート等）の実施、センター内での相談員の便宜を図るため関連図書、古本販売、また書き損じはがき、未使用切手の収集、ポートレートの販売を行っています。

■ 2022 年度チャリティー事業報告

● 10月28日（金）開局50周年+1記念コンサート『花と名曲いのち奏でるコンサート』（於：銀座ブロッサム）

3年ぶりにチャリティー事業の実施ができました。会場に来られたお客様は、久しぶりの再会を喜び、和やかな雰囲気楽しんでおられました。池坊氏の盛花が飾られた舞台上、初めに古今亭志ん輔さんの落語「子は鎚」後、「東京 HANA カルテット」の演奏が行われました。

● 11月5日（土）チャリティーバザー

いつも支援をして下さっている企業様（エイワ株式会社・ジャパンローヤルゼリー株式会社・玉の肌石鹸株式会社・ミヨシ石鹸株式会社）からの献品と相談員からの献品でバザーを行い、収益をあげることができました。

■ 2023 年度チャリティー事業報告

● 上映会「お母さんの被爆ピアノ」 & 映画監督とのトークイベント

2023年7月22日（土）14：00～ 開場：東京ウィメンズプラザホール

トークイベント出演者：映画監督 五藤利弘

● チャリティーバザー

バザーは法人への財政支援事業の大きな柱の一つです。相談員や会員相互の交流を深めながら支援できるよう、秋頃の予定で考えています。

■ 2022 年度 寄付実績

社会福祉法人いのちの電話へ 50 万円寄付

ご支援ください

東京いのちの電話には後援会があり、チャリティー活動を行っていますが、活動運営費の大部分は、個人・企業・各種団体からのご寄付に支えられています。社会福祉法人いのちの電話へのご寄付には、税制上の優遇措置がございます。

振込先

【郵便振替】 00140-3-162972 社会福祉法人いのちの電話

【銀行振込】 三菱 UFJ 銀行 神保町支店 普通預金口座 1084827 フク) イノチノデンワ



社会福祉法人

いのちの電話（東京）

■ 電話相談 [24 時間受付中]

03-3264-4343

■ 自殺予防 [フリーダイヤル]

0120-783-556

（毎日16:00～21:00、毎月10日は8:00から
翌日11日8:00まで、通話料は無料です）

■ インターネット相談

<https://www.inochinodenwa-net.jp/>

■ 東京いのちの電話ホームページ

<https://www.indt.jp/>

東京いのちの電話

検索



【発行日】 2023 年 6 月 【発行人】 末松 渉 【事務局】 〒102-0071 飯田橋郵便局留

【TEL】 03-3263-5794（代）【FAX】 03-3264-4949【HP】 <https://www.indt.jp/>【印刷】 株式会社ユニックス